



八千代市郷土歴史研究会
会長 村田一男
事務局 八千代市勝田台3-24-10 牧野方

お知らせ

8月11日(日) 学習会

市郷土博物館にて午後1時より
・「高津新田」テーマ研究報告

9月8日(日) 拡大役員会

市文化伝承館にて1時半より
・「史談八千代」原稿編集
役員以外の方もご参加ください

9月15日(日) 学習会

市郷土博物館にて午後1時より
・文化祭展示等打合せ・作業
・「史談八千代」原稿〆切

文化祭展示発表

11月23日(土)

午後1時～5時

24日(日)

午前9時～午後4時

勝田台文化プラザ2階 展示室

総会で決定した当初の文化祭の計画は、参議院議員選挙投票会場になったため、上記の日程に変更されました。

その他の活動予定

12月22日(日) 見学会・反省会
15年1月5日(日)

深川七福神巡り

2月16日(日) 学習会(古文書)

3月9日(日) 役員会

3月22-23日

会発足30周年記念行事

・東金砂・西金砂神社大祭見学
(72年に一度の大祭・茨城県内一泊・貸切バス使用を予定)

10月27日(日)

歴史散歩

「旧深川大工町・江戸深川資料館をたずねて」

集合：JR錦糸町南口改札前
10時00分

(京成勝田台8時51分特急
上野行き乗車・船橋でJR快速
9時30分に乗り換え)

申込：電話番号を記入し、ハガキまたはメールで事務局まで。
会員以外の方の参加を歓迎します。(資料代500円)

晩秋の一日、錦糸町から旧千葉街道を西へ三の橋から三つ目通り沿いに小名木川へ、大富橋を渡れば昔の大工町。

町の様子を訪ねながら江戸深川資料館へ、その後、寺町を廻って清澄庭園鑑賞、更に芭蕉の旧跡を訪ねて森下駅で解散。

全長約5km今回は深川を東から西へ歩きます。次回来年の七福神詣では北から南へ歩く予定です。

コース：錦糸町＝旧千葉街道＝三の橋＝(三つ目通り)＝大富橋＝白河1～4丁目(東大工町)＝干鰯場跡＝深川江戸資料館～昼食休憩～霊巖寺ほか塔頭数ヶ寺＝清澄庭園(入園)＝臨川寺＝深川稲荷＝万年橋＝芭蕉庵史跡庭園＝芭蕉記念館＝深川神明宮＝(のらくろ一ど)＝工匠館＝のらくろ館＝森下駅解散

活動報告

4月7日(日)

14年度定期総会報告

総会は、千葉市生涯学習センターにて33名が参加し、いすを補充するほどの盛況で、左記活動計画ほか、千葉寺十善講の同行取材スケジュールなど緊急の課題もふくめ、熱心な討議が行われました。

なお、14年度の年会費は3千円に決まりましたので、未納の方は、園田会計までお納めください。また役員の交代はありませんでした。

総会後はさわやかな天気の中、千葉市街の史跡見学会が行われました。(事務局)



千葉県立中央図書館ホールにて

4月7日(日)

千葉市街の史跡見学会

佐久間 弘文

定期総会を終えた午後、牧野副会長の案内による市街の史跡見学が行われた。

(1) 千葉公園と

旧陸軍関係施設跡

若葉が目にしみる千葉公園にはいくつかの記念碑や案内

板が設置され、池のほとりに「大賀蓮記念碑」、橋を渡った「蓮華亭ホール」は大賀蓮記念館となっている。

この周辺は旧陸軍の「鉄道第一連隊」があったところで、架橋訓練場跡や特別の許可を得て緑地公園事務所内の演習用の隧道跡を見学することができた。



(2) 千葉県道路元標と千葉教会堂（県指定文化財）

モノレールで県庁前駅に降りると駅の真下の四つ辻に「千葉県道路元標」を見ることが出来る。細い路地に入って、日本基督教団千葉教会堂を見学。明治28年独人ゼールの設計による洋風木造建築で、ゴシック風アーチ型の窓が印象的である。

(3) 千葉城址、郷土博物館

特別展「千葉氏から現代まで」と企画展「火縄銃」が開催されており、私を含む？名のシニアは入場無料。さすがに千葉氏の資料は豊富なものがあり、約1時間の見学。

(4) 亥鼻城の土塁、神明社



亥鼻城の先端部に置かれた「神明社」の周辺で見られる土塁の跡を会長から説明を受け、

その側にあった庚申塔について小菅さんから解説が行われた。

(5) お茶の水

ここから坂をくだると「お茶の水」の跡にすぐ出会う。その謂れには次のように記されている。

「治承の昔、千葉常胤卿、源頼朝公を居城亥鼻山に迎へし時、此の水を以てて茶を侷（すす）む。公深く之を賞味せりと傳ふ。

爾来お茶の水と称し星霜八百年清水滾滾（こんこん）として今に濁さず」

水が流れ出てくる雰囲気はあるものの、水栓が閉じられているのか1滴の水もでてこない。千葉市中心街での史跡見学はここで終了し、再開発の進む京成千葉中央駅から帰途についた。

3月17日（日）例会
飛ノ台史跡公園博物館見学

増田俊幸

3月17日（日）に行われた見学会は20名の参加者で、船橋市海神にある船橋市飛ノ台史跡公園博物館に見学に行ってきました。

京成海神駅に集合し、駅から約800m北にある博物館に歩いていきました。駅から、緩やかな上り坂が続き博物館が高台にあることが実感できました。

この博物館は、約7000年前の縄文時代早期の遺跡である「飛ノ台貝塚」の保存のため平成12年11月にオープンした新しい博物館です。この遺跡では、合葬人骨も発見され、全国的にも注目されました。現在までに住居跡25軒、炉穴お

よそ400基、貝塚約40ヶ所が発見されています。

博物館の1階の展示案内映像・ギャラリーコーナーで、短いビデオを見たあと、2階で飛ノ台貝塚を中心にした展示を見学し、3階では船橋の縄文遺跡を中心にした展示を見学しました。

屋外展示施設である「史跡公園」には、飛ノ台貝塚から出土した住居跡、貝塚、炉穴などの発掘当時の様子をレプリカで復元展示してありました。

この博物館は、出土した縄文時代の遺物の展示や住居、貝塚を復元展示するとともに縄文人の生活をパネルや模型により再現されていてとても勉強になりました。



飛ノ台史跡発掘レプリカの見学

千葉寺十善講大師巡行を
取材して（1）

板谷 繁

- ・4月2日（板谷）
- ・4月10日（牧野・板谷）
- ・4月28日（牧野・園田・藤・村上・板谷）

千葉寺十善講大師巡行の取材をしました。

取材を通して千葉寺の関係者・巡礼者の皆様が大変親切に協力して下さい、大いに助かりました。

特に28日の千葉寺に於いては御前様に挨拶出来まして、「史談八千代26号」「八千代

の道しるべ」取材写真25葉を
進呈して牧野事務局長が八千
代市郷土歴史研究会の在り様
を説明、日常は入れない観音堂
内部にも入り、大師の到着4～
5分前には連絡して下さり、大
いに感謝しております。



十善講は総代が御前様より
預かった錫杖を持ち、大笠を被
り先達が笛を吹いて先案内を
する。その後に視察係、詠歌連
幹部長、旗持、一般の巡礼者が
続く、全員が14名ぐらいでマ
イクロバスに乗用車2～3台
がつく。

札所では総代を中心に般若
心経や回向文などを唱え、それ
ぞれの札所の御詠歌を賛唱す
る。番外札所での御詠歌は別
にある。

巡拝が終わると、地元の方
による「お接待」にあずかり、
笛を合図に次の札所へと出発
する。

接待の方法・内容は寺やム
ラにより違いがある、なにも
なく、人影もない札所もある。

「お接待」を受けたお礼と
してムラの人々に御詠歌を賛
唱する。

28日は、千葉寺の結願と「送
り込」大師堂の巡拝が終わると
前年の大師巡行以降に亡くな
った巡礼者の祭壇に御前様を
中心にして供養の経をあげる。

それが終わると総代喜多田
様の司会で千葉寺関係者・巡
礼者・信徒の方々・取材の私
共も円陣になり、御前様のご
挨拶があり、その後全員で手
締めをお

こなった。

次に千葉寺の「お接待」が
在り、御前様のご挨拶で始め
られた。私共も信徒の方々と
同席させていただきました。

<4月2日の大師巡行>

- ① 高津新田 番外
- ② 実靱 36・37番 無量寺
- ③ 屋敷 34番 公開堂
- ④ 武石 35番 真蔵院

<4月10日の大師巡行>

- ① 宇那谷 44番 内山
- ② 上横戸 45番 明星寺
- ③ 下横戸 46番 薬師寺
- ④ 勝田 47番 円福寺
- ⑤ 上志津 48番 西福寺
- ⑥ 井野新田 ⑦上高野原
- ⑧ 上高野 49番 金乗院
- ⑨ 井野 57番 千手院

**千葉寺十善講大師巡行
を取材して(2)**

畠山 隆

・4月11日(木)

千葉寺十善講第2回2日目の
巡行は、米本神社近くの林照
院から始まった。

午前9時にマイクロバス1
台と乗用車2台で集まったの
は、総代以下一行13名。我々
取材班は牧野事務局長以下、
関和、酒井、畠山の4名で
ある。

今や廃寺同然の林照院であ
ってみれば、札所の大師堂も
正面のガラス戸が破損し、補
修する人もなく痛々しいほど
の荒れ方であった。

このあと国道16号線を横
切って、追分～逆水～神野～
保品～下高野と、市内北東部
を半円を描くように巡行した。

各札所での儀式は板谷さん
が前述されているので省略
する。

玉蔵院では我々も含めて昼
食のお接待を受けた。振る舞

いのお返しに全員で唱和する
「お茶のくどく」のご詠歌が
胸に沁みした。

本日の日程は割と楽に組ま
れていたもので、午後1時前
には下高野の福蔵院に到着。

一行はこの後佐倉市域の青
菅、先崎へ向かう予定であ
ったが、我々取材班の追っか
けはここまで止め、関係者の
皆さんに感謝して今日の日
程を終えた。

<4月11日の大師巡行先>

- ① 米本 50番 林照院
- ② 追分 番外
- ③ 逆水 53番 西福寺
- ④ 神野 番外 (三橋家屋敷内)
- ⑤ 神野 58番 玉蔵院
- ⑥ 保品 54番 東栄寺
- ⑦ 保品 番外 (墓地内)
- ⑧ 下高野 56番 福蔵院

・4月12日(金)

3日目は夜来の雨が降り止
まず、集合も遅れて9時15
分過ぎに全員出揃う。一行は
12名、昨日と変わらないメン
バーとお見受けした。

場所は32番の札所で佐倉
市小竹の長谷山西福寺、井野
千手院の末寺である。この近
隣では牡丹の寺として知られ
ている。雨の中、傘をさしな
がら般若心経とご詠歌をあげ
、本堂上がり口で茶菓の振る
舞いを受けてから次の札所へ
向かう。

臼井台の大澤山実蔵院建
徳寺は67番札所にあたる。江
戸時代は佐倉藩臼井領の祈願
寺とされ保護されてきた。大
師堂はあらかじめきちんと清
められ、白菊が供えられて一
行を待っていてくれた。

今日の追っかけ取材は小生
1名のみ。この後は佐倉市内
だけ回るの、ここまでの取材
で打切りにする。途中で帰る
ことにためらいを感じつつ、
深々と一礼して実蔵院を後に
した。

4月27日(土)
花島観音・高津新田大師堂・
小金牧の見学調査報告
天野和邦

京成八千代台駅に9時集合、平野大先輩を含め総勢15名集合しました。平成14年度最初の見学学習会です。早速、村田会長、板谷会員より貴重な資料、地図が配布され本日の見学・調査目的につき説明がありました。

まず、花島観音に向うべく花見川団地循環バスで団地内交番駅下車し、花見川第5小学校の横を下り、昔は谷津の水田跡地の花島公園に着きました。

やや底冷えするゴールデンウィークの初日ですが、真っ青な青空、青葉、谷津の間につりさげられた約20本の大小鯉のぼり。水の中にはミズゴケ、大賀ハス、菖蒲等春真っ盛りの中を無事到着しました。



早速、天福寺の大師堂を見学。普段は入れない場です。千葉寺十善講41,42番です(因みに、文献により番号が異なる場合もあります。現地に行って調べるに超した事はありません)。

古図をみて、会長より天福寺の場所が現在と違うとのご指摘、観音寺?等日本歴史地名大系記載内容と異なる事が次から次に・・・。

村上会員より新道標、石仏刻銘の指摘、梵鐘等新しい宿題、課題が一杯ありました。半月早

ければ満開の桜、枝垂桜が楽しめたのですが。

花島橋を渡り左折し旧道に。竹藪には、美味しそうな竹の子がニョキニョキ。廃寺の十善講43番泉蔵院に到着しました。

ここでも、牧野事務局長等のご指摘で、花見川開削時の天明年間の犠牲者のお墓を確認。(「川ホリ人足」、天明3年11月26日、小川家の方の墓石に併せ刻銘。)天保年間の仁兵衛に先立つ墓石で、これはびっくりでした。

又、村上会員からは、入口左の墓標に、廃寺の泉蔵院にあわせ十善講43番寺、文政元年の刻銘があり一般的にいわれる千葉寺十善講の創設時期の明治3年より早いのではとのご意見もありました。

柏井橋より左折し旧道に入り、途中の道標2基(八千代の道しるべ 03,04)と三山塚手前の庚申塔道標(チ01。元の場所は花見川第1小学校と弁天橋よりの大通りの交差点近辺)を見た上でやっと昼食。自宅組、弁当組、回転鮎組、和食組等に別れ、13:30に再集合。

本日のメイン課題の高津新田大師堂に到着しました。蔵さんからの事前の連絡もあり、管理されておられる地元の方2人がお待ちでした。早速、大師堂を開けていただき村上会員と牧野事務局長が、大変失礼ながらお堂に入り調査をしました。



堂の横には石碑がありご近所

(お堂の建立者のご家族)のお庭に飾られているとの事で、7月の例会時見せていただく段取りと、お堂横の集会所をお借り出来るよう区長さんへのお願いを平野大先輩等会員にお願ひ致しました。

毎週1回のお賽銭の回収とお供えもの等ご近所の皆様のご苦勞は計り知れません。お堂を造られた9名の皆様はすでに亡くなられたそうです。

会長より、本日確認したかった高津新田のコの字型野馬土手の場所確認は次回に地元の方にお聴きする事になりました。

八千代台2丁目と、千葉市作新台2丁目の市境の野馬土手の現況、高津新田を守る為の土手であった事をお聞きしました。千葉市大堀公園の水飲み場跡、長作地区等よりの出入越しのための木戸があったはずだが、木戸場所が不明である旨等課題も多数出てきました。

本日はここで解散の予定でしたが、元気の良い会員(実は私)より、この際“滝の清水”の水飲み場と野馬土手が見られる千葉市長作町(作新台7丁目、実榎)の下野牧の南端迄足を伸ばしました。

4時過ぎ、やっと実榎駅に着き解散となりました。ご苦勞様でした。夕方となり少し肌寒くなりました。

会員の皆様の熱心さと専門化肌、いつも頭が下がります。やはり、会を引っ張っていかれる役員の皆様の方針がはっきりされておられるのでしょうか。

5月19日 例会報告

市立郷土博物館にて、午後1時より19名が参加し、例会を行った。

今年度の研究テーマに沿い、高津新田の成立、その後の新田開発（「辰新田」「所新田」）、小金下野牧とのかかわりについて、江戸時代の絵図などで学習した。

また3月に行われる72年に一度の東西金砂神社大祭について、会の30周年記念行事として一泊の見学会を催すが、大祭の見所などについて、会長から説明があった。

(事務局)

6月8～9日 一泊見学会
上州三国街道の宿場町と古城跡を巡る

福田和雄

平成14年6月8日(土)～9日(日)参加者17名。京成勝田駅北口に集合、トラベル安藤の安藤さんの明るい笑顔に迎えられマイクロバスにのりこみ、定刻午前7時に出発。途中渋滞もなくバスは快適に走り、最初の目的地子持村の白井宿に着く。

1. 白井宿と白井城跡

白井宿は中世、関東管領上杉氏の武将長尾氏によって築かれた白井城の城下町である。ほぼ南北に町の中心の通りがあり、真中に堰川が流れている。

めずらしいことに通りから家屋を斜めにずらして建て、三角形の空地を設けてある。その空地の防御構造を武者返しという。飲料水用の深いつるべ井戸(共用)が点在し、8カ所あった。道しるべや、供養塔なども見つけられた。

坂道を登って白井城跡へ行く。奥に本丸跡があり、門の石垣の一部が残り往時を偲ばせる。西側の武者走りに立つとはるか下に吾妻川の流れが見下ろせる断崖である。

屋敷町にある玄棟院、愛宕神社、源空寺、本多氏の墓、雙林寺そして長尾氏の菩提寺である空恵寺を拝観した。だいぶ遅くなったが多助茶屋で昼食をいただく。



2. 三国街道須川宿と茂左衛門地蔵

須川宿の資料館を見学する。隣接する旧本陣家梅沢氏が所蔵していた古文書、武具、調度品などが展示されている。館長さんの説明があった。越後の大名16藩の藩印届など貴重な資料がある。旧街道筋は今は「たぐみの里と野仏めぐり」の散策コースとして、村おこしに一役買い、匠の工房が点在して観光地となっている。

泰寧寺を拝観した後、月夜野町へ入り茂左衛門地蔵が祀られている千日堂におまいりした。茂左衛門は沼田藩真田氏の庄政に苦しむ領民を救おうと、将軍綱吉に直訴したために、真田氏は改易になり、茂左衛門もはりつけの刑に処せられたといわれる。

初日の見学を終わり、水上温泉郷の「うの瀬温泉」に一泊し、旅のつかれをいやす。

3. 三国街道永井宿

上州最後の宿で、ここから最大の難所三国峠を越えて越後へ入るのだ。国道の下に旧道が通っていて、道に面して民宿がある。宿の主人によれば万延元(1860)年に建てられたという。当時の宿屋が残っていたのだ。

本陣は焼失したが、貴重な写真が残っていて、展示されている。分校跡に建てられた永井宿郷土館には、古文書や宿泊する大名の名札や屏風などが展示されている。

4. 月夜野町の名胡桃城跡

同行の内海さんが当地のご出身で、ご案内していただいた。南北朝期から幾多の変遷を経てきた城で、戦国末期真田氏の支配であったが、北条氏に攻略された。地元保存会の尽力もあり、袖曲輪、本丸、二の丸、北曲輪などよく当時の様子が残されている。



昼食は川場村の吉祥寺の古月庵で、精進料理をいただき、食事後寺内を拝観する。

沼田へ行く途中、地酒「誉国光」の酒造店に寄り、きき酒をして地酒などを土産に買う。

5. 沼田市の沼田城跡

沼田城は天文元(1532)年の頃、沼田氏によって築かれたという。以来幾多の変遷があったが、江戸期土岐氏が城主となって12代、明治維新をむかえて廃城となった。

現在公園として整備されているが、本丸跡に西櫓台と石垣、本丸堀の一部がみられ、わずかに城の名残りをとどめている。

二の丸跡の旧生方家住宅(最も古い町屋造)と旧土岐邸洋館を見学する。これで見学予定を終り午後4時頃帰途につく。全員無事に午後8時すぎ勝田台に帰着した。

TOPICS

保品・東栄寺の薬師堂の 落慶法要と新史料紹介

わらび ゆみ

八千代市の北端に位置し、印旛沼を臨む保品は、文和 2 年 (1353) の「室町幕府御教書」に「星名郷」としてその名が確認できる中世からの村です。

また村上の正覚院の縁起では「本尊は保科村にありしを…入道真円と云う人当寺を建立し、うつして本尊とす…」と書かれ、保品から正覚院の清凉寺式釈迦像が来たと伝承されています。

「八千代八福神」のひとつでもあるその保品の東栄寺の薬師堂がこの度、改修工事を終え、5 月 26 日午後、落慶法要が営まれるとお聞きし、さっそく取材調査に行ってきました。



かつて萱葺きだった薬師堂は、解体後、檀家の浄財により、桧材で補修、屋根は銅板ぶきに改められ、今後百年以上は持つとのこと。

そして解体の際、屋根材から宝永 4 年 (1707) 常州 (茨城県) 河内郡の大工七人と木挽き四人が建てたとの墨書が見つかり、三百年に亘って地域の方々により、大事にされてきたお堂であることがわかりました。

宝永 4 年といえば、この年の 11 月、富士山が爆発し、宝永山ができたたいへんな年でした。住職が挨拶で「祈り込んで伝

えてきた」とおっしゃった薬師如来像と左右の脇侍・十二神将が、小ぶりながらも 1 体も欠けることなく堂内に並ぶ姿は、実に壮観でした。

頭髮が清凉寺式縄目状の髪をしているといわれる薬師如来像は、今は本堂に安置され住職の代替わりの際しか人の目に触れることのない秘仏。その像を模したのだろうか、改修なった薬師堂でこの日拝観できた江戸時代の薬師像も縄目状の髪をしていました。

佐倉市にも頭部が縄目状の鎌倉時代の仏像が 3 体現存し、正覚院の釈迦像との関連と「香取の海」につながる信仰の地域性が感じられます。



この日、落慶法要の席でお会いした市文化伝承館長の木原善和さんから、屋根材に書かれた墨書銘文をいただきましたのでご紹介します。

①(右前隅柱屋根裏部)

「天明三卯二月上旬」

②(左側軒垂木・前から 2m)

「寶永四丁亥 / 二月十一日より初致申候 相場五石八斗□ 清水村川嶋弥□□ / 十月廿三日 立 常州東条庄 / 此年米相場石 □ □ 致申候 / 甘田村勘 □ □ 新十八才 金□□茂□□ / □八百□月□日□ / □より六月中」

③(右側軒垂木・前から 1.8m)

「□ 河内郡 / 山来村□

田喜兵衛 (花押) 生年廿五才 / □□□村阪浦権八郎 (花押) 生年廿三才 / 大工以上七人木挽四人 ○ ○ (巴) ④ (背面軒垂木・詳細は不明) 「寶永四年 四月」

「血流地藏道」説明板が設置されました

貞福寺の支援により、八千代市郷土歴史研究会で作製した「血流地藏道道標」の説明板ができ、大安の 5 月 25 日さっそく会長と蔵・酒井・浦川会員の手に、現地の新木戸三叉路 G S 広告塔壁に取り付けました。

アルミ製のりっぱなプレートです。



成田街道をお通りの際は、新木戸三叉路 G S 角の道標と説明板にもご注目ください。

(わらび・記)

新会員紹介

真砂 弘

八千代市勝田台 5 丁目在住

編集後記

今号は、力作の記事が多かったので、無理に 4 ページに収めず 6 ページだてにしました。

入力を畠山さん、印刷を増田さん、校正を会長、関和、牧野、村上さんにご協力いただき感謝です。

(By ゆみ)

sawarabi-y@nifty.com